

オンライン・対面式カンファレンスへの参加意欲に相対的な影響を与える個人の特性について

1220492 多田 花音

指導教員 小谷浩示

【要旨】

ここ数年であらゆる授業や仕事が著しくオンライン化した。しかし、オンライン化に対してすべての人がポジティブな印象を抱いているわけではない。その人を取り巻く環境や、人それぞれの特性が対面式を好むのか、あるいはオンラインを好むのかに影響を与えている可能性がある。本研究は、どのような特性を持つ人が対面式に対してオンラインを好むか、分析する。日本人 52 名、南アジア人 45 名、計 97 名に対してアンケート調査・データの収集を実施し、統計解析を行った。その結果、家族の人数と一人親家庭かどうかの 2 点が一貫して、対面式に対してオンラインを良いと考える決定要因であることが明らかになった。また、南アジア人に対して日本人の方が対面式によりもオンラインを好んでいるということも明らかになった。しかし年齢や子供の有無、生活スタイルなどを加えて考慮した際には、南アジア人か日本人かの違いは、統計的に有意な結果を示さなくなった。纏めると、家族の人数が少ない人ほど、また一人親家庭の人ほど、対面式カンファレンスに対してオンラインカンファレンスを好む傾向にある、ということが明らかになった。